


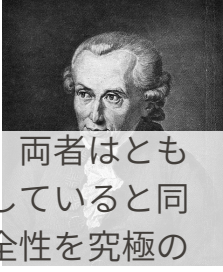
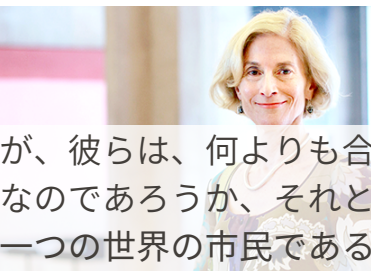
# 世界市民教育プロジェクト 人間形成・教育部門 「世界市民教育」の現在位置と提案

京都大学教育学研究科  
世界市民教育プロジェクト 人間形成・教育部門  
D2 武田 萌  
准教授 三澤 紘一郎  
准教授 広瀬 悠三

## 1. なぜ、今、「世界市民教育」か？

- われわれは、人類史上稀にみる変化の激しい世界に生きている。  
この変化の激しい世界において、地球環境や持続可能性の問題、戦争・テロといった世界規模の問題が発生し、人類は存亡の危機に直面している。
- 教育も、この状況にけっして無関係ではありえない。
- ① 経済的利益至上主義  
経済合理性を第一に、細分化・効率化され加速する社会
  - ② 科学技術・情報技術の驚異的な発展  
生命医療技術やAIの急速な進歩により、人間の知ることのできる範囲が指数関数的に拡張
  - ③ 急速なグローバル化とその反動  
急速に拡がり、複雑・多様になった世界と、急速な変化のもたらす様々な問題に対する批判

## 2. 世界市民とは何か

<p>● 古代：ディオゲネス (Diogenes: B.C.412頃-B.C.323)</p> <p>「あなたはどこの国の人か訊ねられると、『世界市民 kosmopolítēs だ』と彼は答えた」(ディオゲネス: 1989, 162)</p> <p>「世界市民」という矛盾をはらんだ概念</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• kósmo(s)- (世界、宇宙という特定化されない場所)</li><li>• polítēs (都市国家ポリスという特定の場所に住む人)</li></ul>		<p>● 近代：カント</p> <p>「両親は家庭を気遣い、君主は国家を気遣う。両者はともに、世界の最善および、人間性がその使命としていると同時に、そのための素質を持っているような完全性を究極の目的とはしていない。しかしながら、教育計画のための構想は世界市民的に立てられなければならない」(Kant 1968(1803), IX 『『教育学』』 449)</p> <p>世界市民：世界をその住居とし、人類や世界全体、事物の根源、事物の内的価値、究極目的 に関心をもつ。</p>		<p>● 現代：ヌスバウム</p> <p>「もっとも重要な問いであるが、彼らは、何よりも合衆国の市民であると教えられるべきなのであろうか、それともそのかわりに何よりも人類という一つの世界の市民であると、そして合衆国にはたまたま生まれ落ちたのであって、彼らは他の国の市民たちとこの世界を共有しなければならないと教えられるべきなのであろうか？」(ヌスバウム 2000, 24)</p> <p>世界市民について、ケイパビリティ・アプローチの観点から接近を試みる。</p>	
---	---	--	---	--	---

「世界市民」とは、ただ単に「特定の普遍的価値観」や「国境を超えた単一の世界観」を指すものではない

「西洋的」「国民的」といった普遍主義的価値の押し付けではない。  
新自由主義的な世界を生き抜く能力（グローバルコンピテンシー）への偏重でもない。  
そもそも、「世界(特定されない)」と「市民(特定する)」とは矛盾をはらんだ関係にある。

それでは、結局、「世界市民」そして「世界市民教育」とは何だろうか…？

## 3. 世界とは何か

- 世界とは？  
「世界」と聞いて何を想像しますか？
- 
- あらゆる事物・事象・意味連関の総体的全体
  - 「あらゆる他のものは存在するが、世界だけは存在しない」(Gabriel 2017)
- ➔ 「世界」という”明確な対象”は存在しないかもしれないが、われわれは「世界」を考え、絶え間ない変化の中にあるこの総体的全体に近づこうとすることはできる。

- 「問うこと」に目を向ける  
我々は、自分が見たい「理解しやすい世界」に目を向けてしまいがち
- 複雑性を理解するよりも、一義的な解釈を習得する
  - 問い続けるよりも、答えを求める
- (従来の「教育」は、理解した枠内の世界を伝えることに目を向けてしまいがち)
- ➔ 複雑かつ動的で、有機的な世界に目を向け、この理解しがたい世界とは何かを問うことで、世界という総体的全体に近づけることができる。

## 4. これからの世界市民教育

- 答えることと問うこと
- 答えること：与えられた問いの枠内で考えることが求められる
  - 問うこと：問いの枠組みをまず考える必要がある
    - あらゆる事物や事象が存在する世界はどうなっているのか？
    - その世界に生きる人間とは何か？
    - そして自分は这个世界でどう生きたいか？
- ➔ 世界、人間、そして自分を知ることが求められる
- 世界を問うために必要な経験
- 学校教育では、「答えること」に重点がおかれてしまいがち
  - 世界体験（世界は美しい、世界はおもしろい、という原体験）を子どもに保証する教育が、世界を問うことを可能にする
    - 問いは、個別的な自分の原体験とともに生まれる
    - 他者の枠組みや経験から情報を得ることで、自分の問いが出てきづらくなる
- 「問うこと」の重要性
- 問うことを通して、より深く世界に関わり世界を生きることができる
    - 問うことは、自分と世界との接点に主体的に関わること
    - どのように問えば、難しい問題をよりよく解決できるか
  - 問うことによって、複雑で動的で有機的な世界の全体に近づくことができる
  - 問いを生み出し、世界を深く生きることによって、世界の危機的な状況に応答する力がはぐくまれる